

漁海況月報

平成23年 2月 1日

No. 2

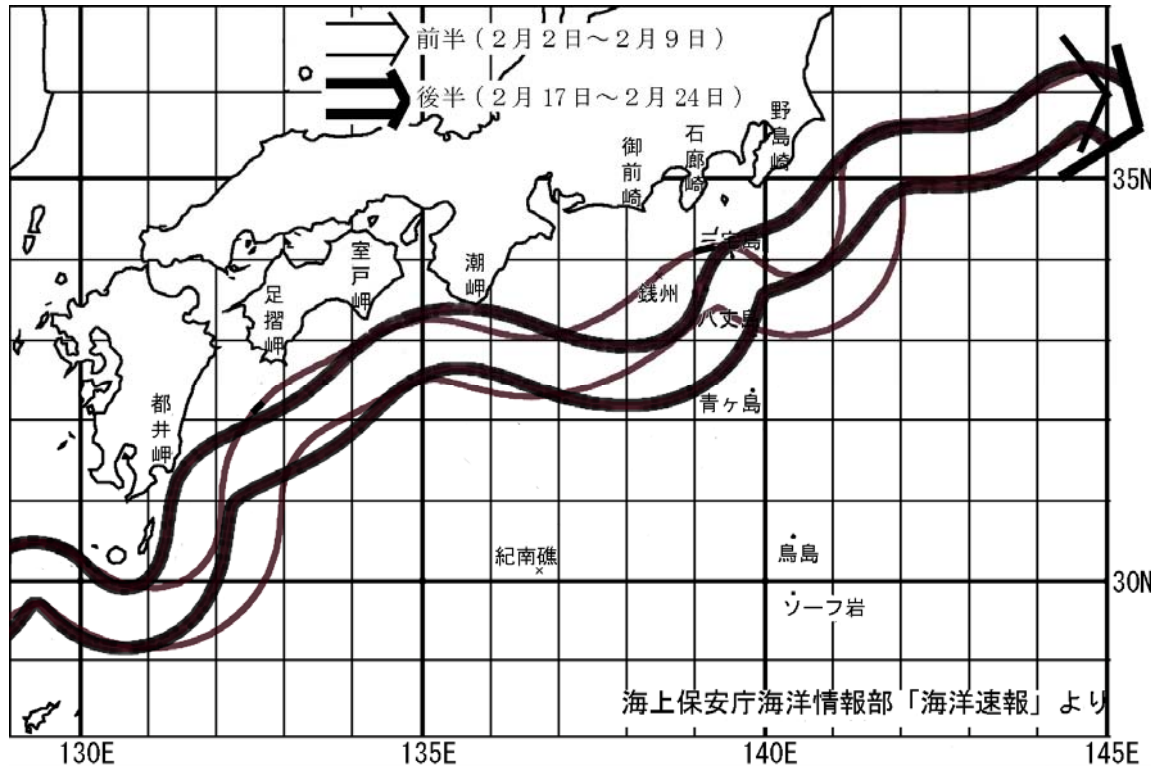
～2月28日

静岡県水産技術研究所

(電話 054-627-1815)

静岡県水産術研究所 伊豆分場

(電話 0558-22-0835)



【黒潮流路】

前半の黒潮は、九州の都井岬沖で離岸傾向を示し、先月からの小蛇行の東進により熊野灘沖および伊豆諸島東の2か所で小蛇行した。

後半には、都井岬沖の離岸傾向および2か所の小蛇行がそれぞれ東進し、四国の足摺岬沖で離岸傾向を示し、潮岬沖以東では駿河湾沖で小蛇行した後、伊豆諸島を北上し房総半島に沿って流れた。

【県下沿岸域】

県下の定地水温は、相模湾側では13～16℃台、駿河湾の東部では12～16℃台、西部では8～16℃台で経過した。焼津を除く駿河湾で上旬に「やや低め」となったが、全般に高めで推移し、焼津では中旬以降「高め～かなり高め」となった。小蛇行通過に伴い2/8に駿河湾東部で約2℃昇温する暖水波及が生じ、中旬以降も沿岸への暖水波及が継続した。

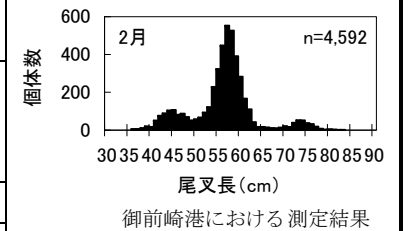
【竿釣カツオ】

県内主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海竿釣り船によるカツオの水揚量は327トンで前年同期の217%であった。魚価は448円/kgで、前年同期を上回った。沿岸竿釣り船は水揚げがなかった。

近海竿釣り船は、小笠原諸島周辺で中大（尾叉長57cmモード）、小（尾叉長45cmモード）、特特大・特大（尾叉長73cmモード）カツオを漁獲した。

竿釣りカツオ水揚量（近海、県内主要5港）

期間	水揚量 (トン)	水揚隻数	水揚/隻 (トン)	平均単価 (円/kg)
23年 2月上旬	120	5	24.0	496
中旬	121	8	15.1	381
下旬	86	8	10.8	478
23年 2月計	327	21	15.6	448
22年 2月計	151	15	10.1	412
21年 2月計	280	19	14.7	246



定地水温の旬平均値 (°C) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	14.3	15.1	14.8	13.8	13.4	14.1	11.0
	0.3	0.6	1.0	-0.6	-0.6	0.5	-0.5
中旬	14.6	15.4	15.5	15.6	14.9	14.8	10.9
	0.7	1.3	1.8	1.3	0.9	1.4	-0.7
下旬	14.2	15.2	15.3	16.1	15.7	15.5	12.7
	0.5	1.1	1.6	1.8	2.0	2.1	1.0
月	14.4	15.2	15.1	15.1	14.6	14.7	11.4
	0.5	1.0	1.4	0.8	0.7	1.3	-0.1

【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網8か統(伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は269トンで、操業がなかった赤石を除く1漁場当たり水揚量は29.9トンで、前年50.5トン(7漁場)の59%、平年値(昭和57～平成22年)23.5トンの127%であった。

魚種別水揚量は、①サバ類85.1トン(A:前年同月比334%、B:平年同月比1,412%)②カタクチイワシ27.2トン(A:13%、B:46%)③マアジ20.7トン(A:236%、B:110%)④スルメイカ20.0トン(A:63%、B:128%)⑤ウマヅラハギ13.7トンの順であった。

サバ類はゴマサバ主体でマサバも混じり、川奈、古網、富戸を中心に入網し、昭和57年以降で最も多く漁獲され、尾叉長のモードはゴマサバ、マサバとも32cmであった。カタクチイワシは古網、赤沢中心に入網し、伊東市場で測定した被鱗体長のモードは13cmであった。マアジは伊豆山、富戸中心に入網し、尾叉長のモードは21cmであった。スルメイカは古網、北川を中心に入網し、外套背長のモードは23cmであった。ウマヅラハギは伊豆山、古網の網代地区を中心に入網し、まとまった漁獲は近年見られておらず、全長は伊東市場で見られたものは25～30cmであった。また、ブリはブリ銘柄が谷津、

北川中心に入網し、1120 尾、8.4 トン（A：16%、B：64%）、平均体重は 7.5 kg（尾叉長のモード 82 cm）で、2007 年級群が中心であると考えられ、ワラサ銘柄は谷津に集中的に入網し、11.2 トン（尾叉長のモード 64 cm）と昭和 57 年以降で最も多く漁獲され、2009 年級群と考えられた。

漁場別水揚量は、古網 55 トン（カタクチイワシ、サバ類、スルメイカ、ウマヅラハギ中心）、川奈 49 トン（サバ類中心）、北川 26 トン（サバ類、スルメイカ、ブリ中心）の順であった。

【サバたもすくい棒受網】

小川港には、たもすくい・棒受網によってマサバ 416 トン（前年同月比 650%）、ゴマサバ 400 トン（前年同月比 48%）が水揚げされた。1 隻あたり水揚量は、マサバが 10.4 トンで近年では豊漁であった平成 19 年（5.9 トン）をも上回った。ゴマサバについては、中旬以降にマサバに漁獲努力が傾注されたため 10.0 トン/隻（前年同月比 51%）であった。マサバの平均単価は 216 円/kg で前年同月（249 円）をやや下回った。ゴマサバの平均単価は 54 円/kg で、前月（48 円）を上回ったが前年同月（61 円）を下回った。

たもすくいの漁場は、ほぼ月を通じてひょうたん瀬に形成され、中旬からはマサバ主体に活況を呈し、本県棒受網船も中旬以降たもすくいに転換した。棒受網の漁場は、上中旬にゴマサバ主体で三本に形成された。

ひょうたん瀬のマサバは、尾叉長 33cm モードの 2 歳魚（2009 年級群）、36cm モードの 4 歳魚（2007 年級群）主体であった。ゴマサバは、三本も含め 28cm モードの 2 歳魚（2009 年級群）、1 歳魚（2010 年級群）主体に 3 歳魚（2008 年級群）以上も混じった。また、三本では 25～26cm モードのオアカムロも混獲された。

小川港 サバ類（たもすくい・棒受網漁業）水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚 日数	水揚 隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
23 年 2 月上旬	1	289	5	11	0.1	26.2	253	50	ひょうたん瀬 三本
中旬	153	100	5	17	9.0	5.9	290	66	ひょうたん瀬 三本
下旬	263	11	4	12	21.9	0.9	172	58	ひょうたん瀬
23 年 2 月計	416	400	14	40	10.4	10.0	216	54	—
22 年 2 月	64	830	14	42	1.5	19.8	249	61	ひょうたん瀬 三本
21 年 2 月	174	241	12	36	4.8	6.7	457	75	ひょうたん瀬 三本

* 水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

【まき網】

小川港ではマイワシが 742.6 トンの水揚げで平年同期（101.8 トン）の 7.3 倍であった。沼津港では、マイワシが 921.5 トンの水揚げで平年同期（120.5 トン）の 7.6 倍であった。静浦港では、マイワシの水揚げはなかった（平年同期も水揚げなし）。カタクチイワシの水揚げもなかった（平年同期も水揚げなし）。伊東港ではマイワシが 0.2 トンの水揚げで、平年同期（46.3 トン）の 0.5% であった。

注) 平年同期：過去 5 年(2006～2010 年)平均

【調査船の動向】

駿 河 丸

2 月 2 日	～	2 月 4 日	地先定線観測調査	(3 日間)
2 月 7 日	～	2 月 8 日	サクラエビ IKMT 調査	(2 日間)
2 月 14 日	～	2 月 15 日	駿河湾短期海況変動調査	(2 日間)
2 月 16 日	～	2 月 17 日	シラス調査(カイト式、TBC、釣獲)	(2 日間)
2 月 23 日	～	2 月 25 日	サババイオテレメトリー調査	(3 日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA の海面水温分布画像と
関東・東海海況速報を見ることができます。

